

第4学年社会科学学習指導案

日 時：令和4年11月24日公開授業2

対象学級：4年4組 30名

指導者：安本 泉

1 単元名

地域で受けつがれてきたもの

2 内容のまとめ

第4学年

〔知識及び技能〕ア（ア）（イ）

〔思考力、判断力、表現力等〕イ（ア）

3 単元の目標

- (1) 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える働きや自然災害から地域の安全を守るための諸活動、地域の伝統と文化や地域の発展に尽くした先人の働きなどについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身に付けるようにする。

〔知識・技能〕ア（ア）（イ）

- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を考える力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。

〔思考・判断・表現〕イ（ア）

- (3) 社会的事象について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

「学びに向かう力、人間性等」

4 単元について

- (1) 児童について

ア これまで、単元導入時に学習問題を設定し、資料を活用したり、実際に調査をしたりして分かったことをまとめていくという問題解決的な学習に取り組んできた。気づきや疑問から学習問題を設定したり、問題を具体的に調査したりする力は伸びつつある。

イ ロイロノートを使用し、カメラ機能を用いて自作の社会科見学新聞を撮影し共有したり、WEBカード機能を用いて地域の社会的事象について調べたりする学習経験がある。

ウ 地域の身近な社会的事象や実際の生活に関わる身近な事柄を具体的に学習するため、学習に意欲的に取り組む姿が見られ、よりよい社会生活に向けて考えまとめる力が身に付いてきている。

- (2) 教材について

ア 岩手県の年中行事や文化財について、歴史的背景や現在に至る経緯、保存・継承の取り組みなどに着目して、見学したり、資料で調べたりして年表などにまとめ、岩手県内の年中行事や文化財の様子を捉える。また、人々の願いや努力と関連付けて考え、県内の年中行事や文化財は、地域の人々が受け継いできたことやそれらには地域の発展といった人々の様々な願いが込められている

ことを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究し、解決しようとする態度を育てることがねらいである。

イ 盛岡周辺には、昔から受け継がれてきた伝統さんさがあるが、滝沢市にも滝沢さんさと呼ばれるさんさがある。私たちが、毎年、運動会で全校さんさを踊り続けている意味やその度に保存会の方が教えに来て下さる理由などを理解し、自分たちも地域の一員として練習や発表を通して、岩手県の年中行事を次の世代に継ぐ一端を担っていることに気付いたり、地域への愛情が深まったりすることができると思う。

(3) 指導について

ア 本単元における言語活動の特徴等

「滝沢さんさを保存・継承されてきた保存会の方々に手紙を書く」という言語活動を設定する。盛岡さんさの歴史や発展について理解を深め、滝沢さんさ保存会の方々への感謝や自分たちの思い、これからの関わりを伝えることで、単元の目標を達成できるようにしたい。

イ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫等

「主体的な学び」を実現するために、導入段階においては、自分たちの県を代表する年中行事であっても、児童には縁遠いものと感じられるであろうことから、それらの文化財や年中行事の魅力がしっかり伝わる映像や写真などの視覚資料を数多く提示し、感覚的に捉えることを通して教材への関心を高める。また、さんさ踊りがいつから始まりどのように継承・発展してきたか予想を話し合いながら、見通しをもって主体的に追究できるようにする。

「対話的な学び」を実現するために、さんさ踊りパレードが400年ほど前から地域の盆踊りとして踊られてきたことを年表を活用して提示する。本単元では、人から人へ受け継がれていく願いや思いを知ることが重要であるため、継承するための工夫や努力、市民の協力で視点をあて、学級全体で対話的に考察を進めることができるようにする。また、資料から分かること、資料から考えたことを書くようにしながら、根拠となる資料を電子黒板に映し出し、説明できるようにする。

「深い学び」を実現するために、対話によって生まれた共通点や相違点を明らかにし、新たな発見や気付きなどを価値付けていく。特に、伝統の保存・継承に関わる大変さや努力の面ばかりに偏らないように、創造的で進取的な面も積極的に取り入れるために、友達との対話を通して、保存会の方々の様々な思いがあって年中行事や文化財が受け継がれてきていることに気付き、他の地域の行事等にも進んで興味を持ったり、関わろうとしたりする態度につなげていく。

ウ 研究の手立てとのかかわり

電子黒板にデジタル教科書を投影したり、タブレットに資料を配布したりすることで、視覚化・焦点化を図る。また、ロイロノートを活用し、映像や写真などを手元でじっくり確認したり、自分と友達の考えを共有したり、説明したり、比較検討したりすることで、単元の目標を達成するための手立てとしたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 県内の文化財や年中行事は、地域の人々が受け継いできたことや、それらには地域の発展などの人々の様々な願	①文化財や年中行事の歴史的背景や現在に至る経過、保存や継承のための取組などに着目して、県内の文化財や年中行事	① 県内の伝統や文化について、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しよう

いが込められていることを理解している。	事の様子を捉え、人々の願いや努力を考え、表現している。	としている。
---------------------	-----------------------------	--------

6 指導と評価の計画（8時間）

時間	ねらい	○主な学習活動・内容	□資料	評価方法と【評価規準】
第一次				
1・2	岩手県の年中行事や文化財に興味・関心をもち、単元の学習問題を設定したり、学習の見通しをもったりすることができる。	<input type="radio"/> 「早池峰神楽」や「吉浜スネカ」, 「県内各地の主な伝統的な行事や文化財」などの写真を電子黒板に映し、気付いたことを話し合う。 ICT (視覚化) <ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の年中行事や文化財について、その数や受け継がれてきた市町村を調べる。 ・自分の地域の年中行事や文化財について、知っていることを話し合う。 	<input type="checkbox"/> 動画 「早池峰神楽の様子」 「吉浜スネカの様子」 <input type="checkbox"/> 地図 岩手県に伝わる年中行事	発言の内容やノートの記述から「自分たちの県の年中行事や文化財の写真などを見て、感じたことや考えたことをもとに、調べるための問いを見出しているか」を評価する。 【態-①】
		<input type="radio"/> 「三ツ石神社」や「さんさ踊り」の写真を電子黒板に映し、気付いたことを話し合う。 ICT (視覚化) <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡さんさ踊りパレード」の写真を見て、知っていることや気付いたことを話し合う。 ・副読本の文章を手掛かりに、調べてみたいことを話し合い、単元の学習問題を設定する。 	<input type="checkbox"/> 写真 「三ツ石神社」 「三ツ石神社でさんさ踊りを踊る人たち」 <input type="checkbox"/> 動画 「盛岡さんさ踊りパレードの様子」	発言の内容やノートの記述から、「岩手県の伝統や文化について、予想や学習計画を立て、解決の見通しをもっているか」を評価する。 【態-①】
盛岡さんさ踊りのような地域の年中行事は、どのように受け継がれてきたのだろう。				
第二次				
3	盛岡さんさ踊りの始まりや踊りに込められた願いについて理解することができる。	<input type="radio"/> 「三ツ石神社でさんさを踊る人たち」の写真を電子黒板に映し、気付いたことを話し合う。 ICT (視覚化) <ul style="list-style-type: none"> ・「盛岡さんさ踊り実行委員会の人のお話」の写真を電子黒板に映し、さんさ踊りの始まったころの様子を捉える。 ・盛岡市歴史文化館の学芸員さんのお話から、さんさに関わる伝説と、踊りに込められた願いについて捉える。 	<input type="checkbox"/> 写真 「三ツ石神社でさんさを踊る人たち」 「盛岡さんさ踊りのポスター」 <input type="checkbox"/> 文章 「実行委員会・学芸員さんのお話」	発言の内容やノートの記述から、「盛岡さんさ踊りの始まりについて、写真や実行委員会の方の話、学芸員の方の話などをもとに、必要な情報を集め、読み取り、踊りに込められた願いについて理解しているか」を評価する。 【知-①】

4	<p>盛岡さんさ踊りの歴史について、年表などから読み取り、踊り始められてから現在に至るまでの経緯を捉えることができる。</p>	<p>○「さんさ踊りパレードの様子」の写真と、観光客数のグラフを見て話し合う。 ICT (視覚化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・祭りの大きさから、始められたころの様子と経緯に問いをもち、学習問題を設定する。 ・盛岡さんさ踊り実行委員会の人のお話と年表から、さんさ踊りの大まかな歴史を捉える。 ・伝統さんさを統合した盛岡さんさパレードが発展してきたことについて、自分の考えをまとめて発表する。 ICT (共有化) 	<p>□写真 「さんさ踊りパレードの様子」 □グラフ 「盛岡市の人口とさんさパレードの観光客数」 □文章 「実行委員会の人のお話」 □年表 さんさ踊りの歴史</p>	<p>発言の内容やノートの記述から、「盛岡さんさ踊りの歴史について、年表などから読み取り、踊り始められてから現在に至るまでの経緯について理解しているか」を評価する。 【知-①】</p>
5 本時	<p>滝沢さんさ踊りを保存・継承している人たちが、昔から伝わる伝統を未来につなげたいと願いながら取組を行っていることについて考え、表現することができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長い間、保存・継承していくためにはどのような取組が必要か、また、どのような思いで活動しているかをゲストティーチャーから聞く。 ICT (視覚化) ・滝沢さんさ保存会の方たちがどのような願いをもっているか話し合い、自分の考えを発表する。 ICT (共有化) 	<p>□動画 「滝沢さんさ踊り保存会の方のお話」</p>	<p>発言の内容やノートの記述から、「滝沢さんさ踊りを受け継ぐ方から話を聞き、年中行事と地域に住む人々のくらしを関連付けて、さんさ踊りを保存・継承する人々の願いについて考え、表現しているか」を評価する。 【思-①】</p>
第三次				
6	<p>チャグチャグ馬コについて、滝沢さんさ踊りと比べながら調べ、伝統的な年中行事を保存・継承する人たちの願いについて考えることができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「チャグチャグ馬コの様子」を電子黒板に映し、さんさ踊りの様子と比べながら、気付いたことを話し合う。 ICT (視覚化) ・受け継ぐ人や若い人たちへの願いを知り、自分の考えを持つようにする。 ・県外・海外の方にもっと知ってほしいという思いが、盛岡さんさ踊りと似ていることに気付くようにする。 	<p>□写真・動画 「チャグチャグ馬コの様子」</p>	<p>発言の内容やノートの記述から、「チャグチャグ馬コについて滝沢さんさ踊りと比べながら調べ、伝統的な年中行事を保存・継承する人たちの願いについて考えることができるか」を評価する。 【態-②】</p>

7 ・ 8	学習したことをもとに、岩手県の年中行事や文化財を調べ、地域の伝統や文化の保存・継承にかかわって自分たちにできることを考え、選択・判断し、協力しようとしている。	○調べてきたさんさ踊りとチャグチャグ馬コについて振り返り、それを見て共通点・相違点について気付くようにする。 ICT (視覚化) ・いずれの年中行事も昔から人々が大切に保存・継承してきたことを捉えられるようにする。 ICT (共有化)	発言の内容やノートの記述から、「県内の年中行事の保存・継承について調べたことを表に整理している。 【知-①】
		○新型コロナウイルス感染症予防のために中止になった様々な年中行事の事実から、それらを保存・継承していくことの難しさとそのための工夫を考えるようにし、自分にできることを考え、保存会の方に手紙を書く。 ICT (共有化)	ノートや手紙の内容から、調べてきた文化財や年中行事の保存・継承に関わって、自分が協力できることを考えたり、学習したことの中から選択・判断したりして、手紙を書いている。 【態-①】

7 本時の指導（5時間目／全8時間）

（1）目標

滝沢さんさ踊りを保存・継承している人たちが昔から伝わる伝統を未来につなげたいと願いながら取組を行っていることについて考え、表現することができる。

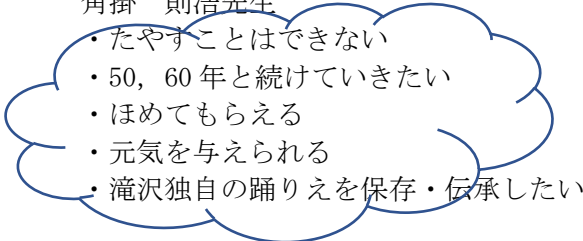
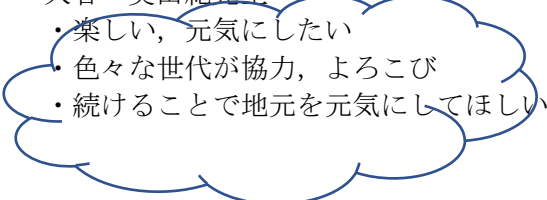
（2）展開

段階	学習活動	指導上の留意点（◇評価）
導入 7 分	1 前時の学習想起	<ul style="list-style-type: none"> 地域の盆踊りが統合されて有名な祭りになるまでには、たくさんの人の協力があつたこと、また、さんさ踊りには、人々を元気にしたいという願いがこめられていたことを発表できるようにする。 伝統さんさである滝沢さんさ踊りは、9地区が集まって活動していることを紹介し、練習風景の動画から気がついたことを発表できるようにする。 様々な世代が集まっていること、真剣に練習していること等を捉え、課題の把握へつなげる。
	2 本時の課題把握 ICT (視覚化)	
	滝沢さんさ踊りは、保存会のみなさんがどのような思いで取り組み、受けつがれてきたのだろう。	
	3 解決の見通し <ul style="list-style-type: none"> どのような取組をしているか、どのような思いをもって活動しているかに着目する。 保存会の方にお話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡さんさ踊りの学習を生かして、何を学ぶか、どのように学ぶかの見通しを持つようにする。

<p>展 開 28 分</p>	<p>4 課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝沢さんさ保存会の会長にインタビューした動画を視聴する。 <p style="text-align: center;">ICT (視覚化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会長のお話の内容を確認する。 ・滝沢さんさ踊り保存会会員の方のお話を聞く。 ・疑問に思ったことなどを質問する。 ・会長と共通する思いがあることを確認する。 ・お二人のお話から、考えたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・滝沢さんさの始まりや保存・継承していくための取組やさんさ踊りへの思いについて、お話を頂く。 ・発表したことを分類して、板書する。 ・衣装の紹介、さんさ踊りへの思いについて、お話しをして頂く。 ・さんさ踊りの活動が、人々の心をつなぎ、楽しみながら元気になる大切な地域の行事であることに気づくようにする。 ・江戸時代から保存・継承されてきた滝沢さんさ踊りは、地域発展の願いがこめられて続いてきていることを理解できるようにする。
<p>終 末 10 分</p>	<p>5 まとめ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>滝沢さんさ踊りは、保存会のみなさんが、『楽しさや大切さを知り、続いてほしい』という思いで受け継がれてきた。</p> </div> <p style="text-align: center;">ICT (共有化)</p> <p>6 振り返り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ぼくは、この学習を始める前まではなんとなく踊っていたけど、保存会の方は見ている人が元気になるように、という願いを持って踊っていることを知ったから元気に踊りたい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>協力し合って楽しみながら活動していると知った。この先も滝沢さんさが続いてほしいと思った。来年の盛岡さんさ踊りが楽しみだ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保存会の方の思いを知ったので、ぼくたちも運動会のさんさ踊りでは、下の学年の人たちにしっかり教えていきたい。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを共有する。 	<p>◇【思判表】〔ノート・発言〕</p> <p>滝沢さんさ踊りがどのような思いで受け継がれてきたのかについて、自分の考えを表現している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝沢さんさ踊りが、これからも保存・継承されていくために、自分はどうにかかわっていくことができるかを考える。

(3) 板書及び電子黒板等の計画

ア 板書

課題 滝沢さんさ踊りは、保存会のみなさんがどのような思いで取り組み、受けつがれてきたのだろう。	目標 滝沢さんさ踊りは、保存会のみなさんが『楽しさや大切さを知ってこれからも続けてほしい』という思いで受けつがれてきた。
解決の見通し <ul style="list-style-type: none">・取組, 思い・お話を聞く	①滝沢さんさ踊り保存会会長 角掛 則浩先生
取組 <ul style="list-style-type: none">・会員ば集・あいさつ・様々な場所でひろう・たくさん練習・教えている	 <ul style="list-style-type: none">・たやすことはできない・50, 60年と続けていきたい・ほめてもらえる・元気を与えられる・滝沢独自の踊りえを保存・伝承したい
江戸時代の さんさ	現在の さんさ
	②滝沢さんさ踊り保存会会員 大谷 美由紀先生
	 <ul style="list-style-type: none">・楽しい, 元気にしたい・色々な世代が協力, よろこび・続けることで地元を元気にしてほしい

イ 電子黒板

まとめの提示
